

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,264	t-CO ₂
① （温 を 二 室 除 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 ） 排 出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,264

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 5 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 8 年度			
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	2,264	t-CO ₂	2,151	t-CO ₂	5.0	%

項 目	基準年度 令和 5 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 8 年度			
			目標排出量		目標削減率	
原単位当たりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

地球温暖化による酷暑を鑑み、当院の空調設備の運転時間延長のため排出量の目標削減率を低めに設定しました。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー実践 冷暖房（空調）	冷暖房の温度設定（冷房 28℃ 暖房 19℃）	タイマー装置を用いた時間制御や使用していない部屋のこまめな電源OFFなどを行う。
省エネルギー実践 照明設備	使用していない部屋等、時間外の消灯の徹底 病院の蛍光灯照明の全面LED化を目指す。	病院全体の照明器具をLED化する。
省エネルギー実践 OA機器・エレベーター	OA機器・コピー機、PCプリンターは自動節電モードにて使用する。 エレベーター 職員の使用制限（時間帯や階段の利用の強化）	職員に健康維持のため階段利用の推奨を行う。
廃棄物の排出抑制	コピー用紙の再生紙利用の推進 古紙分別回収に徹底 資源リサイクルの推進 不燃物の排出量の抑制	分別回収の保管場所を整理し仕分けし やすい廃棄場所とする。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

公用車の一部に電気自動車を導入する。

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

トイレに擬音装置を設置する。
職員等へ節水を求める。

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

定時退社を促していく。